

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	少人数指導推進事業			事業コード	1685
所属コード	202500	課等名	学務教職員課	係名	教職員係
課長名	星 俊也	担当者名	阿部 裕二	内線番号	7328
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	共に生き未来を創る教育・文化	コード	4
	施策	将来を担う次世代の育成	コード	1
	基本事業	幼稚園・小中学校教育の充実	コード	1
予算費目名	一般会計 10 款 2 項 2 目 少人数指導推進事業 (001-06)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 平成 16 年度
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

小学校低学年において、きめ細かな指導を行い基本的生活習慣の定着と基礎学力の向上を図るため、1 学年及び 2 学年を対象とし、1 学級あたりの児童数が概ね 30 人以上を目処に、対象となる学校に非常勤講師（教員免許有資格者）を配置する。併せて雇用の拡大を図る。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

平成 16 年度に開始された県教委が実施する「すこやかサポート推進事業」を補完し、小学校低学年における基本的生活習慣と基礎学力の向上を図り、きめ細かな指導をすること。また、平成 22 年度から雇用拡大の一方策としても行っている。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

「すこやかサポート推進事業」の対象が平成 22 年度から小学校全学年に変わったが、本事業の対象は低学年の指導の重要性を考慮し、そのまま小学校低学年としている。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が，何が対象か）

盛岡市立小学校の1学年及び2学年の児童

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22年度 実績	23年度 実績	24年度 計画	24年度 実績	26年度 見込み
A．配置基準対象学級数	学級	20	17	13	13	15
B						
C						

（3）24年度に実施した主な活動・手順

小学校1学年及び2学年に非常勤講師を12人配置した。（うち8人は緊急雇用創出事業）

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22年度 実績	23年度 実績	24年度 計画	24年度 実績	26年度 目標値
A 配置学級数	学級	4	12	12	12	4
B						
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

小学校低学年における基本的生活習慣の定着と基礎学力の向上を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 配置学級充足率 (配置学級数/配置基準対象学級数)	■上げる □下げる □維持	%	69	71	92	92	27
B	□上げる □下げる □維持						
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	15,179	14,999	15,095	15,077
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	7,518	7,476	7,476	7,468
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	22,697	22,475	22,571	22,545
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	44	44	44	240
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	176	176	176	960
計	トータルコスト A+B	千円	22,873	22,651	22,747	23,505
備考 「⑥延べ業務時間数」を実態に即した数字に修正した。						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

小学校低学年における基本的生活習慣の定着と基礎学力の向上は、将来を担う次世代育成のため不可欠である。

② 市の関与の妥当性

義務教育であり、税金を使って達成すべきである。小学校低学年において、心身の発達に応じたきめ細かな指導を行い、基本的生活習慣の定着と基礎学力の向上を図るため、少人数指導の充実・拡大が保護者から求められている。また、併せて雇用の創出に寄与した。

③ 対象の妥当性

小学校低学年の少人数指導の充実のためには配置数の向上が有効であるが、緊急雇用創出事業の推移により配置数は変動せざるを得ない。このほか、児童の不適応状態の改善、教師の負担感の改善など、実際の効果を計る指標の設定も求められているが、前者についてはほかの施策の効果もあって改善傾向にある。

④ 廃止・休止の影響

少人数学級の拡大により少人数教育は充実しつつあるが、小学校低学年で、基本的生活習慣の定着と基礎学力の向上のためのきめ細かな少人数指導が行われないとすれば健やかな成長に影響を及ぼす恐れがある。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

小学校低学年においては、基本的生活習慣の定着と基礎学力の向上のためのきめ細かな指導が特に重要であり、今後、現場の意見をより詳しく分析する必要がある。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

公正な義務教育の一環として実施している。

(4) 効率性評価

本事業は、非常勤講師を対象学級に派遣するものであることから、事業費を削減すると十分な効果が得られなくなる。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

実際の効果を計る指標として、教師の負担感の改善の設定を検討する。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容